

小規模校のゼロから始めるキャリア教育

(理論編)



自己実現力を高めるキャリア教育の推進について
～地域・企業との協働的・探究的な学習に向けた、

カリキュラムの開発・実践を通して～

三原市立大和中学校校区

令和5年度作成

目 次

(研究を進める手順)

1. 研究テーマを設定する	P.1
2. 育成を目指す資質・能力を整理する	P.2
3. 育成を目指す資質・能力の系統表を作成する	P.3
4. 育成を目指す資質・能力と基礎的・汎用的能力とのつながりを整理する	P.4
5. 育成を目指す資質・能力のルーブリックを作成する	P.7
6. 各教科における資質・能力のルーブリックを作成する	P.10
7. 地域・産業界と連携する	P.13
8. 育成を目指す資質・能力を共有する	P.14
9. 育成を目指す資質・能力を評価する	P.14

補足資料Ⅰ：キャリア教育年間指導計画（三原市立大和小学校）

補足資料Ⅱ：キャリア教育年間指導計画（三原市立大和中学校）

本誌の見方

- ・取り組んだ結果や内容を、ゴシック体で記載している。
- ・詳細や考え方、参考資料などを、「トピック」の欄に明朝体で記載している。

1. 研究テーマを設定する

自己実現力を高めるキャリア教育の推進について
 ～地域・企業との協働的・探究的な学習にむけた、カリキュラムの開発・実践を通して～

※大和小中学校が考える「自己実現力」とは、

『自分の個性や適性を認識し、なりたい将来の姿を具体的に表現し、実現のために行動する力』

《トピック1-1：地域におけるキャリア教育について》

当該地域は、平成26年度に1認定こども園、1小学校、1中学校となった地域である。ほとんどの児童・生徒はこれまでの人生の大半を、ほぼ同じ集団で生活している。これまでも、三園校で課題を共有しながら各校で様々な取組を行ってきた。

また、小学校では6年間で計画的に故郷大和町の産業や歴史・文化を学ぶ取組を実施し、中学校では平成30年度から企業との協働による商品開発・販売に取り組むキャリア教育を進めてきた。

令和3年度に、小中が一体的にキャリア教育に取り組むこととなり、共に育てたい資質・能力を整理し、ルーブリックを作成していく中で、大和町の資源を生かした教育活動全体を整理してきた。

《トピック1-2：資質・能力の変遷について》

【～令和3年度】

三つの柱	大和小	大和中
知識及び技能	知識及び技能	知識及び技能
思考力、 判断力、 表現力等	/	情報活用能力
	コミュニケーション力	表現力
学びに向かう力、 人間性等	主体性	主体性
	思いやり	自己理解・ 自己肯定感

【令和4年度～】

大和中学校区
知識及び技能
<u>情報活用能力</u>
<u>言語能力（伝える）</u>
<u>言語能力（聞く）</u>
主体性
<u>自己理解・ 他者理解</u>

※赤字が変更箇所

※令和3年度まで設定していた資質・能力をもとに、育成を目指す資質・能力を再設定した。

※「情報活用能力」「言語能力」は、学習指導要領（平成29年告示）解説総則編に、学習の基盤となる資質・能力として例示されている資質・能力である。

※自分のことだけでなく、他者に関わることも大切にしたいと考え「自己理解・他者理解」を設定した。

2. 育成を目指す資質・能力を整理する

【令和4年度～】

三つの柱	大和中学校区
知識及び技能	知識及び技能
思考力、判断力、表現力等	情報活用能力
	言語能力（伝える）
	言語能力（聞く）
学びに向かう力、人間性等	主体性
	自己理解・他者理解

《トピック2：資質・能力と三つの柱とのつながりについて》

(1) 「情報活用能力」を構成する資質・能力

- ・知識・技能
- ・思考力・判断力・表現力等
- ・学びに向かう力・人間性等

【学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 小P.51、中P.52】

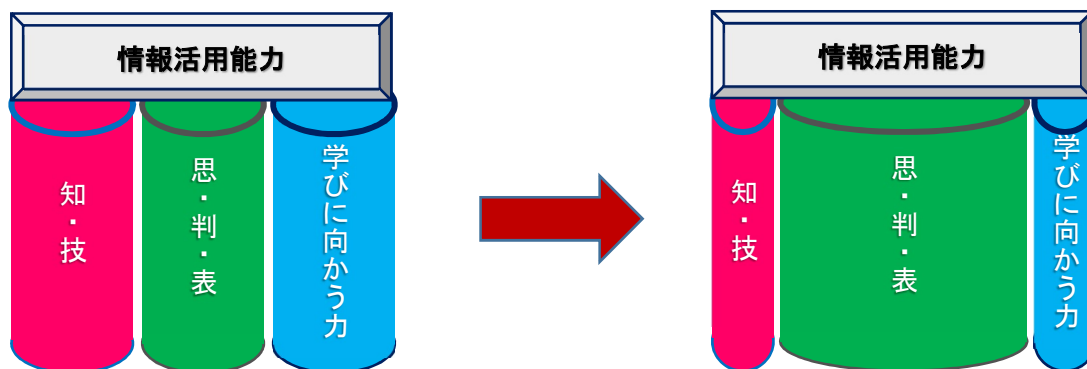
(2) 「〇〇力」とされる汎用的能力には、

- 「思考力・判断力・表現力等」をメインとするもの、
「学びに向かう力・人間性等」をメインとするものなど、それぞれに特徴がある。

【深い学び／田村学・著 P.70】



(1)、(2)より、「情報活用能力」は、「思考力・判断力・表現力等」をメインとすると整理した。



他の資質・能力も同様に考え、整理した。

3. 育成を目指す資質・能力の系統表を作成する

【三原市立大和小・中学校が育成を目指す資質・能力 系統表】

	大和小学校			大和中学校		
	資質・能力	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
知識及び技能	知識及び技能	各教科・領域等で求められている知識・技能を身に付け、相互に関連付け生きて働かしている。				
思考力、判断力、表現力等	情報活用能力	【どうやってしらべる】 自分に必要な情報手段を考えることができる。	【どれを選ぶ】 課題の解決に向けて情報手段を適切に選択し、情報を収集することができる。	【まとめて比べる】 目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理や比較することができる。	収集した情報をもとに多面的・多角的に物事をとらえ、判断することができる。	
	言語能力	【じゅんじょをかんがえてつたえる】 手順の順序を考えて伝えている。	【理由や例をあげて伝える】 理由や事例などを挙げて伝えている。	【事実と意見を区別して伝える】 事実と意見を区別して伝えている。	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して伝えている。	
学びに向かう力、人間性等	主体性	【かんがえをもつ】 課題に対する自分の考えを持っている。	【自分から動く】 課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。	【周りを見る】 課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。	課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。	
	自己理解・他者理解	【じぶんをきる】 自分の好きなことや嫌なことを見つけている。	【よいとこ見つけ】 自分のよさを見つけ、友達のよさを認めている。	【自分らしさ】 集団の中で、自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮している。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を拒絶し、尊重している。	

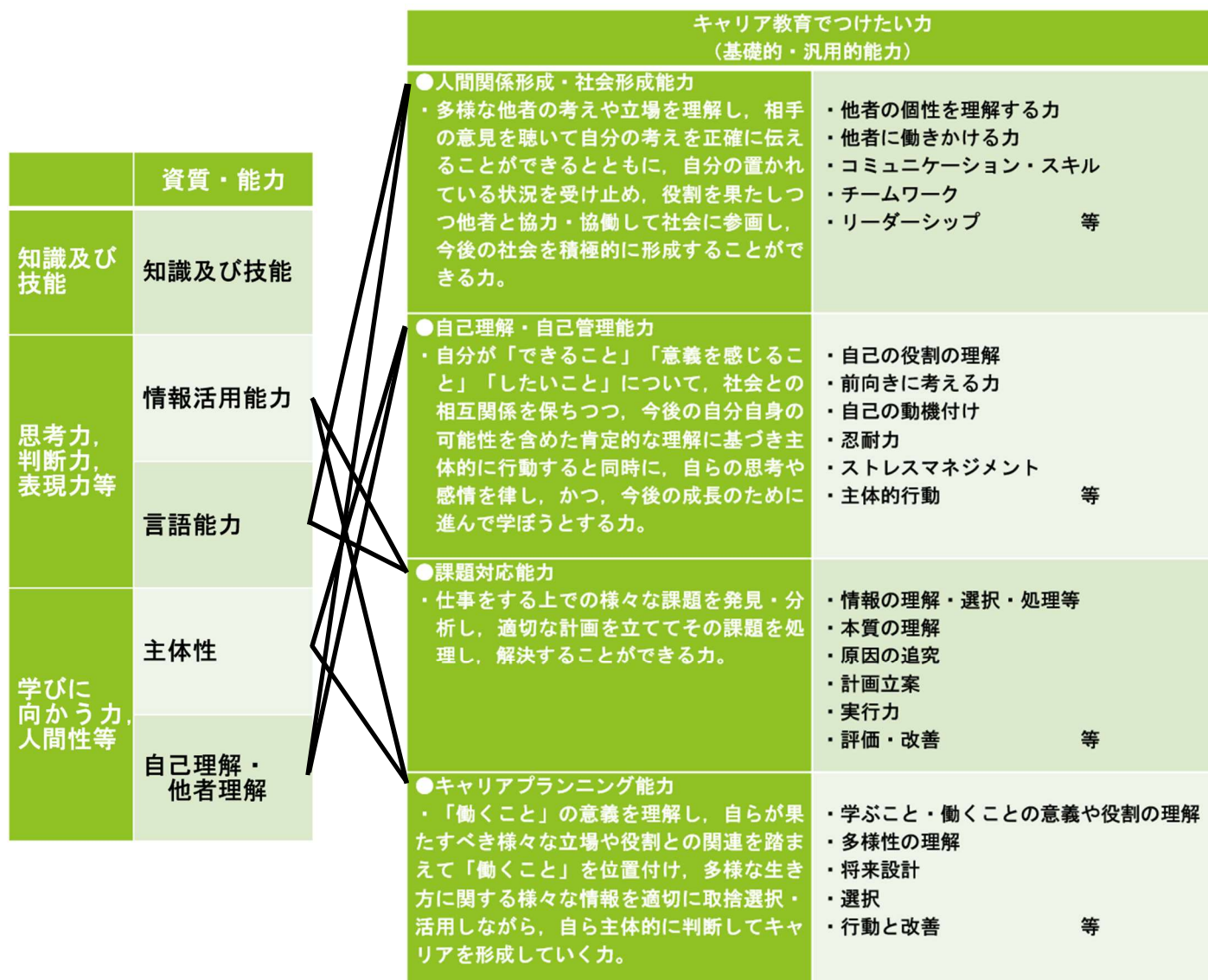
《トピック3：系統表作成時に参考にした資料など》

- ・小学校5、6年生と中学校1年生を同じ内容にし、小・中学校のつながりをもたせた。
- ・「情報活用能力」については、学習指導要領 総則編「学習の基盤となる資質・能力」にある情報活用能力の箇所を参考にしている。
- ・「言語能力（伝える）」については、学習指導要領解説 国語編の「話すこと・聞くこと」を参考にしている。
- ・「言語能力（聞く）」については、学習指導要領解説 国語編の「話すこと・聞くこと」を参考にしている。
- ・「主体性」については、令和3年度まで大和中学校区で用いていた「主体性」のルーブリックをもとに作成した。
- ・「自己理解・他者理解」については、キャリア教育の手引きを参考にしている。

4. 育成を目指す資質・能力と基礎的・汎用的能力とのつながりを整理する

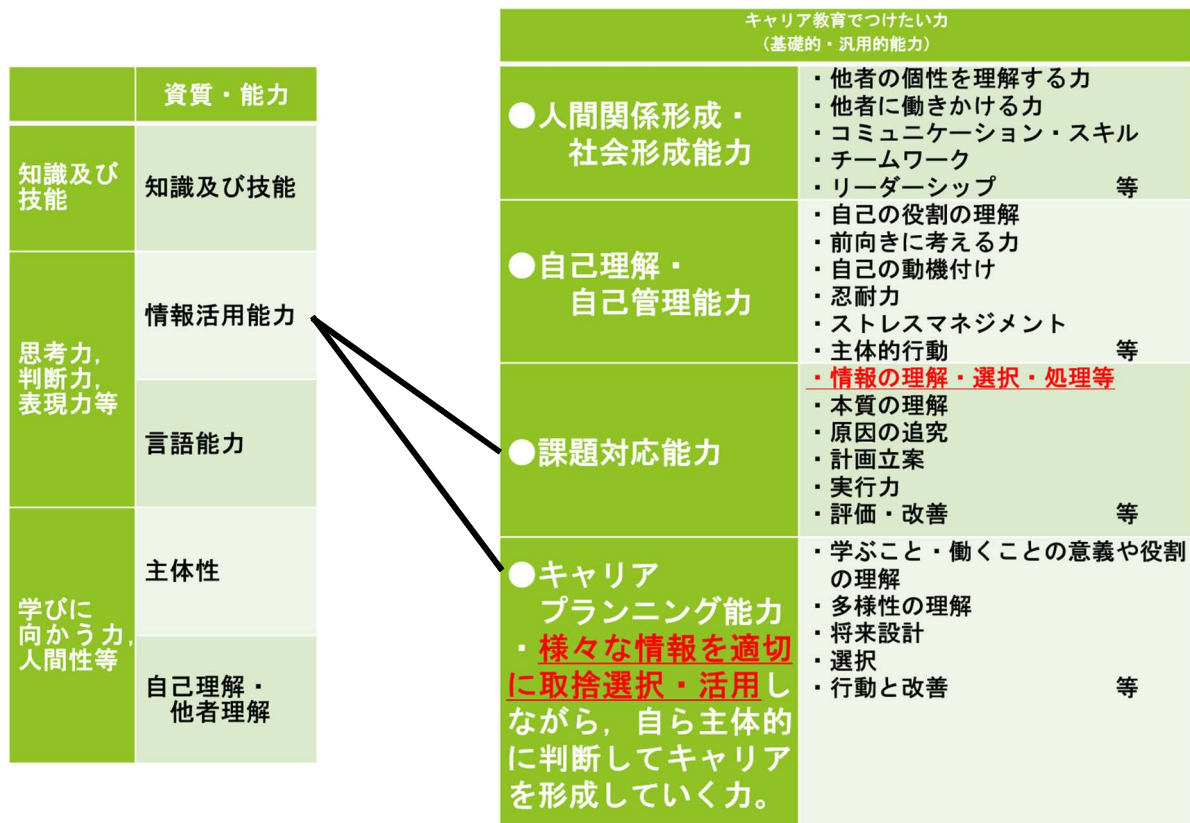
○ 左側の資質・能力と右側の基礎的・汎用的能力をバラバラのものとするのではなく、キャリア教育の実践がより効果的な取り組みとなるよう、そのつながりを整理した。

整理したことで、1つの取組でどちらの力も育成できると考えた。

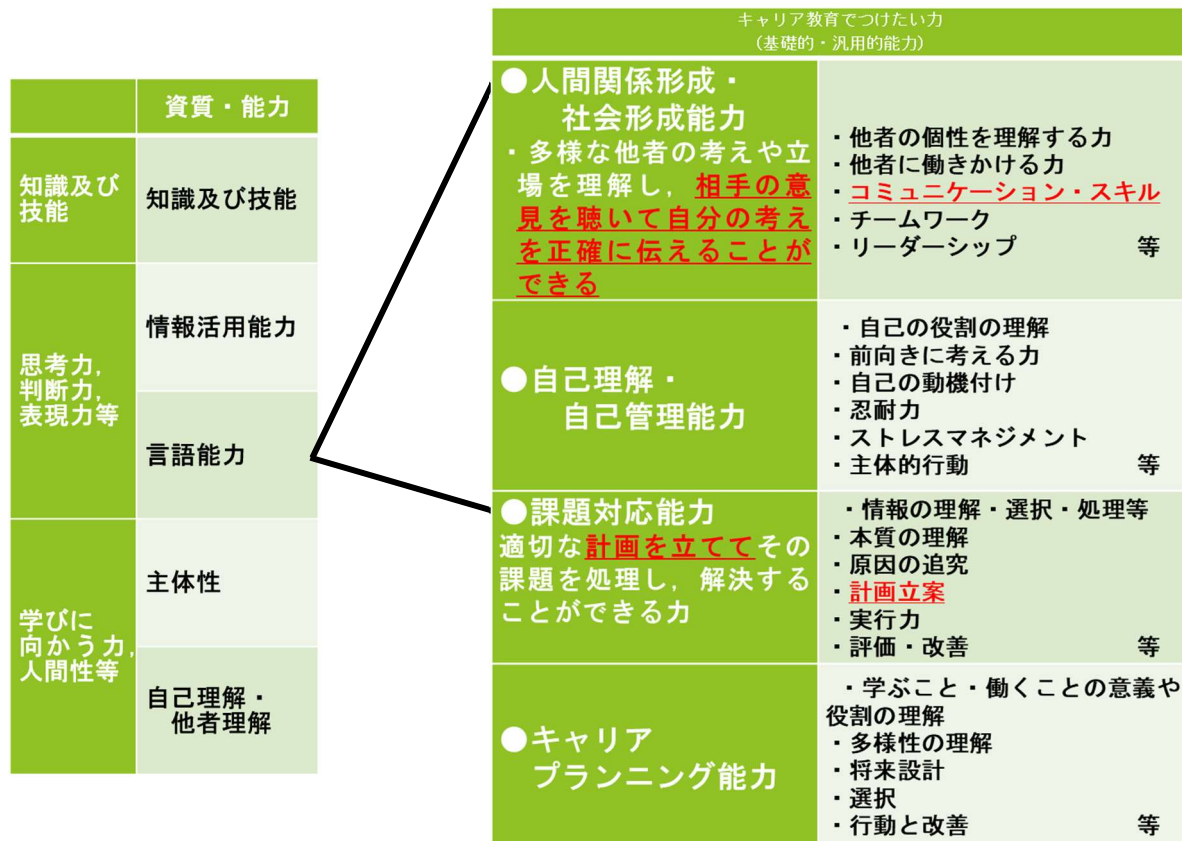


《トピック4：各資質・能力と基礎的・汎用的能力とのつながりについて》

(1) 情報活用能力



(2) 言語能力



※何かの計画立案をする際には誰かに説明することがあるので、課題対応能力ともつなげた。

(3) 主体性

資質・能力		キャリア教育でつきたい力 (基礎的・汎用的能力)	
知識及び技能	知識及び技能	●人間関係形成・社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の個性を理解する力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーション・スキル ・チームワーク ・リーダーシップ 等
思考力、判断力、表現力等	情報活用能力	●自己理解・自己管理能力 ・肯定的な理解に基づき 主体的に行動する	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割の理解 ・前向きに考える力 ・自己の動機付け ・忍耐力 ・ストレスマネジメント ・主体的行動 等
	言語能力		
学びに向かう力、人間性等	主体性	●課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の理解・選択・処理等 ・本質の理解 ・原因の追究 ・計画立案 ・実行力 ・評価・改善 等
	自己理解・他者理解	●キャリアプランニング能力 ・ 自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解 ・将来設計 ・選択 ・行動と改善 等

(4) 自己理解・他者理解

資質・能力		キャリア教育でつきたい力 (基礎的・汎用的能力)	
知識及び技能	知識及び技能	●人間関係形成・社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の個性を理解する力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーション・スキル ・チームワーク ・リーダーシップ 等
思考力、判断力、表現力等	情報活用能力	●自己理解・自己管理能力 ・ 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割の理解 ・前向きに考える力 ・自己の動機付け ・忍耐力 ・ストレスマネジメント ・主体的行動 等
	言語能力		
学びに向かう力、人間性等	主体性	●課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の理解・選択・処理等 ・本質の理解 ・原因の追究 ・計画立案 ・実行力 ・評価・改善 等
	自己理解・他者理解	●キャリアプランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解 ・将来設計 ・選択 ・行動と改善 等

5. 育成を目指す資質・能力のルーブリックを作成する

○「系統表（3で作成）」を尺度の3として、ルーブリックの作成をする。

○「情報活用能力」については、学習指導要領 総則編「学習の基盤となる資質・能力」にある情報活用能力の箇所を参考にしている。

【情報活用能力（思考力、判断力、表現力等）】

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	自分に必要な情報手段を適切に考えることができる。	問題の解決に向けて情報手段を選択し、情報を収集し、整理することができる。	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理や比較し、統合することができる。	収集した情報をもとに多面的・多角的に物事をとらえて判断し、表現することができる。	
3	【どうやってしらべる】 自分に必要な情報手段を考えることができる。	【どれを選ぶ】 問題の解決に向けて情報手段を適切に選択し、情報を収集することができる。	【集めて比べる】 目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理や比較することができる。	収集した情報をもとに多面的・多角的に物事をとらえ、判断することができる。	
2	自分に必要な情報手段を知ることができる。	問題の解決に向けて情報手段を適切に選択している。	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理することができる。	収集した情報をもとに多面的または多角的に物事をとらえ判断することができる。	
1	自分に必要な情報手段を知ることができない。	問題の解決に向けて情報手段を適切に選択することができない。	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理することができない。	収集した情報をもとに多面的または多角的に物事をとらえ判断することができない。	

○「言語能力（伝える）」については、学習指導要領解説 国語編の「話すこと・聞くこと」を参考にしている。

【言語能力（思考力、判断力、表現力等）】：伝える

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	行動したことや経験したことに基づき、事柄の順序を考えて伝えている。	話の中心が明確になるよう、理由や事例などを挙げて伝えている。	話の中心的部分と付加的部分、事実と意見を区別して伝えている。	自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて伝えている。	
3	【じゅんじょをかながえてつたえる】 事柄の順序を考えて伝えている。	【理由や例をあげて伝える】 理由や事例などを挙げて伝えている。	【事実と意見を区別して伝える】 事実と意見を区別して伝えている。	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して伝えている。	
2	提示された構成に当てはめて伝えている。	理由を挙げて伝えている。	事実と意見を区別していないが、詳しい説明を付け加えて伝えている。	自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開などに注意して伝えている。	
1	提示された構成に当てはめて伝えていない。	理由を挙げて伝えていない。	事実と意見を区別しておらず、詳しい説明を付け加えて伝えていない。	自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開などに注意して伝えていない。	

- 「言語能力（聞く）」については、学習指導要領解説 国語編の「話すこと・聞くこと」を参考している。また、中学校第2、3学年は、言語能力（伝える）との関連性をもたせている。

【言語能力（思考力，判断力，表現力等）】：聞く

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	友達の考えを最後まで聞き、自分の感想をもっている。	必要なことを記録しながら聞き、自分の考えをもっている。	相手の意図を考えながら聞き、自分の考えをまとめている。		話や文章の展開に注意し、自分と相手との考えを比較しながら聞き、自分の考えをまとめている。
3	【さいごまで聞く】 友達の考えを最後まで聞いている。	【メモをとりながら聞く】 必要なことを記録しながら聞いている。	【考えながら聞く】 相手の意図を考えながら聞いている。		話や文章の展開に注意し、自分と相手との考えを比較しながら聞いている。
2	友達の考えをおおむね聞いている。	必要なことと不必要なことを問わず記録しながら聞いている。	相手の意図を考えていないが、自分の聞きたいことを聞いている。		話や文章の展開に注意しながら聞いている。
1	友達の考えを聞いていない。	話を聞いているが、記録していない。	相手の意図を考えておらず、自分の聞きたいことを聞いていない（記録をとっている程度）。		話や文章の展開に注意して聞いていない。

- 「主体性」については、令和3年度まで大和中学校区で用いていた「主体性」のルーブリックをもとに作成した。

【主体性（学びに向かう力，人間性等）】

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。	課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。	課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。		課題と自分の関係を問い直しながら、他者とともに進んで行動している。
3	【かんがえをもつ】 課題に対する自分の考えを持っている。	【自分から動く】 課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。	【周りを見る】 課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。		課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。
2	自分の考えを持っているが、課題に対して適切ではない。	課題に対する自分の考えを持っている。	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。		課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。
1	課題に対する自分の考えを持っていない。	自分の考えを持っているが、課題に対して適切ではない。	課題に対する自分の考えを持っている。		課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。

○「自己理解・他者理解」については、キャリア教育の手引きを参考にしている。

【自己理解・他者理解（学びに向かう力，人間性等）】

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	自分のよさを見つけ、友達のを認めている。	集団の中で友達のを認め、自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮している。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重している。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、他者に配慮しながら行動している。	
3	【じぶんをしる】 自分の好きなことや嫌なことを見つけている。	【よいとこ見つけ】 自分のよさを見つけ、友達のを認めている。	【自分らしさ】 集団の中で友達のを認め、自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮している。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重している。	
2	自分の好きなことを見つけている。	自分の好きなことや嫌なことを見つけている。	自分のよさを見つけ、友達のを認めている。	集団の中で友達のを認め、自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮している。	
1	自分の好きなことを見つけていない。	自分の好きなことを見つけている。	自分の好きなことや嫌なことを見つけている。	自分のよさを見つけ、友達のを認めている。	

《トピック5：各ルーブリックの尺度について》

(1) 「情報活用能力」「言語能力」といった技能的な側面をもった資質・能力は、尺度の3を基準に、評価する内容を付け加えたり、減らしたりした。

(2) 「主体性」「自己理解・他者理解」といった、生徒の内面を評価するものについては、全体で7つの尺度とした。

【主体性（学びに向かう力，人間性等）】

尺度	大和小学校			大和中学校	
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第1学年	第2・3学年
4	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。④	課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。③	課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。②	課題と自分の関係を思い慮しながら、他者とともに進んで行動している。①	
3	【かんがえをもつ】 課題に対する自分の考えを持っている。⑤	【自分から動く】 課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。④	【周りを見る】 課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。③	課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。②	
2	自分の考えを持っているが、課題に対して適切ではない。⑥	課題に対する自分の考えを持っている。⑤	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。④	課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。③	
1	課題に対する自分の考えを持っていない。⑦	自分の考えを持っているが、課題に対して適切ではない。⑥	課題に対する自分の考えを持っている。⑤	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。④	

6. 各教科における資質・能力のルーブリックを作成する

- 5で作成したルーブリックは、主に、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事などで活用することができる。
- 5で作成したルーブリックをもとに、各教科においても評価できるように、各教科における資質・能力のルーブリックを作成する。
※ただし、全教科・全単元で作成するとルーブリックだらけになるので、研究授業時などに作成するとよい。
- これから紹介する各教科における資質・能力のルーブリックは、**参考となる具体例**である。

【情報活用能力（思考力、判断力、表現力等）】

尺度	評価基準	社 会	数 学
		小5・さまざまな土地のくらし	中1・比例
4	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理や比較し、統合することができる。	特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、表現することができる。	比例定数が正の数・負の数のどちらにも共通している比例の特徴を見いだしている。
3	【集めて比べる】 目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理や比較することができる。	自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を比べることができる。	比例定数が正の数・負の数のときの、比例の特徴を比べることができる。
2	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理することができる。	自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉えることができる。	比例定数が正の数・負の数のときの、比例の特徴をそれぞれ見いだすことができる。
1	目的に応じて様々な情報を収集し、複数の情報を整理することができない。	自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉えることができない。	比例定数が正の数・負の数のときの、比例の特徴を見いだすことができない。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会篇 P75、76 参考

※中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学篇 P86 参考

【言語能力：伝える（思考力、判断力、表現力等）】

尺度	評価基準	体 育	数 学
		小5、6・器械運動	中1・データの活用
4	話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見を区別して伝えている。	つまづいていた技と演技のこつ（アドバイス）とを区別し、こつの中で重点的なことから伝えている。	多数の観察や多数回の試行の結果と、結果を基にして考察したことを区別して、最も特徴的な傾向から伝えている。
3	【事実と意見を区別して伝える】 事実と意見を区別して伝えている。	つまづいていた技と演技のこつ（アドバイス）とを区別して伝えている。	多数の観察や多数回の試行の結果と、結果を基にして考察したことを区別して伝えている。
2	事実と意見を区別していないが、詳しい説明を付け加えて伝えている。	つまづいていた技と演技のこつ（アドバイス）とを区別せずに、分かったことを伝えている。	多数の観察や多数回の試行の結果と、結果を基にして考察したことを区別せず、分かったことを伝えている。
1	事実と意見を区別しておらず、詳しい説明を付け加えて伝えない。	演技の可否程度しか伝えない。	多数の観察や多数回の試行の結果程度しか伝えない。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育篇 P129 参考

※中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学篇 P93 参考

【言語能力：聞く（思考力、判断力、表現力等）】

尺度	評価基準	音楽	音楽
		小5、6・B 鑑賞	中1・B 鑑賞
4	相手の意図を考えながら聞き、自分の考えをまとめている。	音楽的な根拠に基づいて、曲がもつよさや、演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を味わってきいている。	鑑賞の活動を通して習得した知識を踏まえてき返し、音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によってきいている。
3	相手の意図を考えながら聞いている。	音楽的な根拠に基づいて、曲がもつよさや、演奏のよさを考えながらきいている。	鑑賞の活動を通して習得した知識を踏まえてきいている。
2	相手の意図を考えていないが、自分の聞きたいことを聞いている。	曲や演奏の部分的なよさなど、自分が聞きたいことをきいている。	音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によってきいている。
1	相手の意図を考えておらず、自分の聞きたいことを聞いている（記録をとっている程度）。	曲の印象のみをきいている。	初発の感想のように、表層的にきいている。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 P108 参考

※中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 P58 参考

算数・数学では、式や答えのみを聞いているを「2」、式や答えと導いた考え方も聞いているを「3」、考えを聞いたことをまとめているなら「4」とし、汎用性を高くすることも考えたが、これは教科の力を育成しているとは考えにくい。

教科で付ける力をみとるためにループリックを作成することを目的としているため、伝えることがメインとなり、聞くことをメインとしていない算数・数学では、「言語能力：聞く」を評価基準に入れることは適さないのではないかと考えた。

同様に、「言語能力：聞く」を評価基準にすることが適さない教科があると考えられる。

【主体性（学びに向かう力、人間性等）】

尺度	評価基準	図工	数学
		小5、6	中1
4	課題に対する自分の考えを持ち、他者とともに進んで行動している。	形や色などを視点にもち、自ら周囲と関わり、自分らしい活動を充実させている。	数学学習への関心・意欲が高まり、数学的活動に取り組み、異なる考えを相互に取り入れ深めている。
3	【周りを見る】 課題に対する自分の考えを持ち、周りの状況を見ながら、進んで行動している。	形や色などを視点にもち、友人と関わり合い、表現や鑑賞の活動を意欲的に行っている。	数学学習への関心・意欲が高まり、数学的活動に取り組み、さらに、よりよい方法や結果を見いだすために何度も見直している。
2	課題に対する自分の考えを持ち、進んで行動している。	形や色などを視点にもち、自分の思いを具体的な形や色などに表したり、自分の考えを大切に鑑賞したりしている。	数学学習への関心・意欲が高まり、数学的活動に取り組んでいる。
1	課題に対する自分の考えを持っている。	形や色などを視点にもち、作品などをつくったり見たりしている。	数学学習への関心・意欲が高まっている。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編 P37、60、83 参考

※中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編 P59（数学的活動）、64（学びに向かう力、人間性等）参考

【自己理解・他者理解（学びに向かう力、人間性等）】

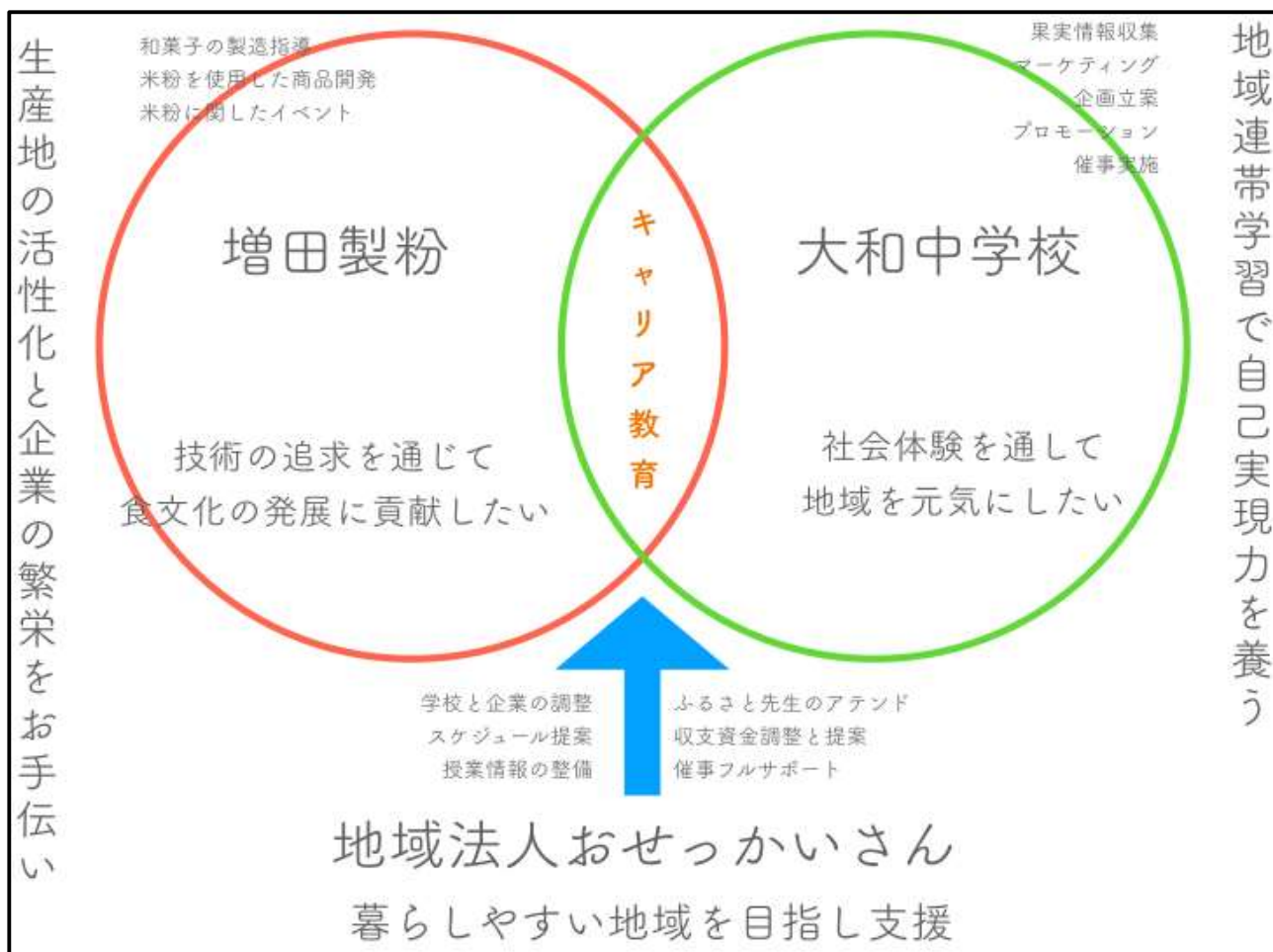
尺度	評価基準	生活
		小2・あしたへジャンプ
4	自分のよさを見つけ、友達のよさを認めている。	自分のことや支えてくれた人々について考え、成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもっている。
3	【じぶんをする】 自分の好きなことや嫌なことを見つけている。	優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、内面的な成長にも気付いている。
2	自分の好きなことを見つけている。	自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。
1	自分の好きなことを見つけていない。	自分の成長を振り返ることができていない。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編 P49、50 参考

- ・「自己理解・他者理解」は、生活科以外の各教科におけるルーブリックの作成は難しいと考えた。
- ・小3以上の学年では、従来のルーブリックで総合的な学習の時間を中心にみとるようにする。
- ・全学年、特別活動でも活用することができる。

7. 地域・産業界と連携する

【地域との連携のイメージ図：この図はR5年度用】



【連携について】

- 年度始めに、「地域法人おせっかいさん」と打合せをし、年間計画の確認をする。
 - 「地域法人おせっかいさん」を通じて、協働する企業との調整や、講師（ポスター制作・ラジオCMなど）への依頼をして頂く。
 - 日常的に、Google のドライブを利用して情報共有をする。
- ※「地域法人おせっかいさん」は、保護者（元大和町全域地域支援員、元大和町観光協会）や地元企業の代表取締役、大和中学校卒業生で構成されている。

《トピック7：連携のポイント》

- ・講師を依頼するときは、その取組が始まる前である。そこで、児童・生徒の発言をある程度予測したり、導いたりすることが必要となる。取組が進むにつれ、児童・生徒の思いや考えで、取組内容が追加・変更になることがある。
- ・お互いの考えや思いを共有することが大事である（Win-Win の関係になるようにする）。
- ・すべてを丸投げするのではなく、地域にお願いしたいことと学校側が行うこととを明確にする。

8. 育成を目指す資質・能力を共有する

【教員間での共有】

- 4月：職員会議で共有する（各学校）。
- 夏季休業中：中学校区の学校で共有する。

【児童・生徒との共有】

- 4月：総合的な学習の時間や生活科などで共有する。
- 「系統表（3で作成）」と「ルーブリック（5で作成）」とを両面印刷したものを、机の横にかけ、いつでも振り返ることができるようにする。



《トピック8-1：育成を目指す資質・能力を共有することの良さ》

- ・4月の総合的な学習の時間に、生徒と学年の教員とで系統表とルーブリックを確認することで、生徒・教員で共通認識を持つことができる。そのため、生徒にとっては、「今の自分はどのようなことができている、どのようなことを頑張ればよいのか」、教員にとっては「生徒にどのような力がついていて、これからどのような力を育成していかなければならないのか」が明確になる。

《トピック8-2：育成を目指す資質・能力を意識した生徒のエピソード》

【主体性の例】

- ・掃除や部活動の際に、周りを待たずに、自分だけ一生懸命していた中学1年生の生徒が、「今の僕は、主体性の『2』でしたね。」と自分自身を振り返り、教師に話しかけてくる、ということがあった。

9. 育成を目指す資質・能力を評価する

【児童・生徒による自己評価】

- 年度始め、単元終了後、年度終わりの少なくとも3回は、全資質・能力について自己評価を行う。
- 総合的な学習の時間や生活科は、ほぼ毎時間自分が発揮したと思う資質・能力について自己評価を行う。

【教員による評価（記載）】

- 単元終了後または年度終わりに評価（記載）を行う。
児童・生徒の取組の様子や児童・生徒が記載した内容をもとに評価（記載）を行う。
- 総合的な学習の時間や生活科は、ほぼ毎時間児童・生徒の取組の様子や児童・生徒が記載した内容をもとに評価を行い、次の取組時に活用できるようにする。